【報告1】令和3年度事業の進捗状況

事務局では令和3年度当初より、ワーキングチームを立ち上げて令和3年度事業を進めている。令和2年度臨時総会から令和3年度総会までの間、準備会を2回開催し、定例事務局会議での協議を経て、活動を進めている。

ワーキングチームは、下記の4チームである。

- (1)登録団体と連携をはかり登録団体の活動の情報共有や課題を解決するためのチーム(登録団体ワーキング)
- (2)協議会や登録団体の活動を周知、応報発信をするためのチーム(情報発信ワーキング)
- (3) 居住支援サービスや住宅相談窓口のあり方を検討するチーム(相談窓口ワーキング)
- (4) 共同研究結果(空家/空き室アンケート、不動産ヒアリング等)から不動産業者との連携やとしま居住支援バンクのあり方などを検討するチーム(居住支援バンクワーキング)

1 居住支援サービス充実に向けた支援

オーナーや不動産事業者のニーズに応じた居住支援サービス及び住まいに関する困りごと 等についての相談体制については、登録団体が取り組んでおり、そのサポートの充実に向け て、登録団体ワーキングと相談窓口ワーキングによる検討を始めた。また、区の住宅相談の 内容について、担当の福祉総務課からの報告により事務局で情報共有を図っており、今後、 協議会で取り組む事業等の検討を進めている。

2 としま居住支援バンク及びセーフティネット住宅の登録促進

居住支援バンクワーキングでは、定行研究室と連携した不動産事業者ヒアリング等から、「としま居住支援バンク」登録制度の簡略化などによる、不動産事業者を活用したバンク登録促進の検討を進めている。あわせて、住宅部局と福祉部局が実施している居住支援の情報が不動産事業者やオーナーにあまり知られていないことから、としま居住支援バンクへ物件を登録したオーナー(以下、「としま居住支援バンクオーナー」という。)及び不動産事業者に対し効果的に情報を周知するため、定期的な情報提供の仕組みについて検討している。

3 普及啓発活動の推進

情報発信ワーキングでは、ホームページのリニューアルに取り組んでいる。また、動画配信による情報発信として、事務局メンバーが持つ動画チャンネルでの「空き家・空き室セミナー」や、登録団体による「西池袋共生ハウス」の紹介など豊島区や登録団体、協議会構成団体の取組みを紹介するプログラムを企画している。

また、定期的な情報発信のため、「広報としま」での居住支援協議会枠の確保を進めている。

4 空き家・空き室の実態調査(日本女子大学 定行研究室委託業務)

昨年度調査のフォローアップとして「居住支援」への関心が高く、「としま居住支援バンク」 への登録可能な物件を有している不動産事業者へのヒアリングを実施している。ヒアリング 調査には、居住支援バンクワーキングのメンバーが同行している。

また、これまでの調査結果や、登録団体との連携についての報告などを目的とした、居住 支援に関するシンポジウムの開催を検討している。

5 居住支援団体の登録制度

登録団体ワーキングでは、登録団体等の居住支援関連の活動をしやすくなるための支援、 各団体の課題を解決するための取組みとして、登録団体への訪問等で悩みや居住支援協議会 への要望を把握することから取り組んでいる。

また、登録団体のイベント時に居住支援協議会のブースの設置や、昨年度作成した啓発グッズの配布等で連携を深めることに取り組んでいる。

すでに、登録団体からは、支援者の引っ越しのお手伝いの仕組みづくりや、不動産事業者 の紹介依頼等の相談を受けており、これらの支援について検討を進めている。

6 家賃助成制度

計画通りに進めている。

[ワーキングチーム年間予定]

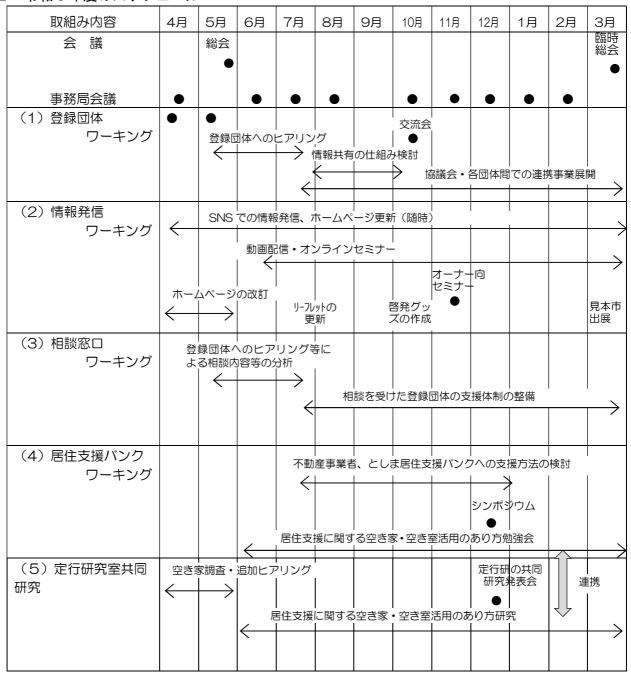
1 全体スケジュール

(1) 令和3年度臨時総会の報告事項:①検討成果のまとめの報告

②改善方針の提案

(2) 令和4年度総会の報告事項:①活動の見直しと実施報告

2 令和3年度のスケジュール



※定行研の共同研究発表会とシンポジウムは同じ内容